

平成 29 年度
事業報告書



ぽれぽれグループ
社会福祉法人うねび会

ぽれぽれグループの理念と基本方針

「尽道楽生」～ ゆっくり たのしく ごいっしょに ～

高齢者を人生の大先輩として敬い、常に謙虚に介護をさせていただくという気持ちを忘れてはなりません。

1. 質の高いサービスの提供

介護の道に近道はありません。高齢者の「生活を支える」ことを使命として「長生きしてよかった」「あなたとめぐり会えてよかった」と満足と信頼していただけるよう努めなければなりません。

2. 王道をいく

質の高いサービスの提供を、順法の精神と社会的ルールに則ってひた向きに追求して行くことが地域・社会に貢献することに繋がります。
またそこで働く職員自身にも自らの誇りと自己実現が可能な組織づくりにも繋がります。

3. 「考える」「学び合う」「実践する」組織

一人一人が常に向上心を持って、自己啓発に努めます。現場に学び、失敗で学び、帰納と演繹の考え方で広く知恵を共有し実践し評価する組織でなければなりません。「楽しく学び合い」「夢があって思いやりのある職場」を目指します。

4. 地域に開かれた組織

四通八達に地域社会と交流し地元から好感と信頼をいただける組織でなければなりません。例えば「地域の清掃をする」「地域の住民と仲良くする」「地域が繁栄することをして貢献する」「介護の相談に応ずる」「介護情報の提供」「職場の提供」等々を通じて地域に開かれた組織を目指します。

5. 発展的、継続性ある組織

ご利用者から「信頼」を「安心」をいただく為には組織が発展的で永遠に活性化していなければなりません。その為には全職員が一致して知恵と汗をだして目標を立て達成する責任があります。

はじめに



社会福祉法人うねび会 理事長 酒井宏和

昨年度の平成 29 年度は第 6 期介護保険計画の最終年度として、当法人も中長期計画
ぽれぽれ BBS2025 の中で持続的に地域包括ケア構築とサービスの質向上に努めてまいり
ました。

経営面では、当法人の中核的事業である高齢者総合福祉施設「ぽれぽれケアセンター
白檀」の安定的な経営と新規事業である住宅型有料老人ホーム「ぽれぽれ白檀コンフォ
ート」を満床に近づけることを目指しました。介護サービス質向上や働きやすい職場づ
くりの課題については、言葉遣いや利用者対応の接遇、職員の定着率、情報の共有、認
知症の方への対応、また継続課題のリーダー職の育成と新人への OJT に取り組みまし
た。また、平成 29 年 4 月の社会福祉法改正により、コーポレートガバナンスの強化と情
報開示、公益的な活動の推進などが示されましたが、特に地域貢献活動については、地
域生活支援事業、ぽれぽれカフェ、認知症サポーター養成講座、まほろば幸いネットな
ど地域に根差した活動を進めております。

この 1 年間は、具体的な重点的目標として、

- ① ぽれぽれ白檀コンフォートの経営の安定
- ② 公益的な活動と地域とのつながりの強化
- ③ 人材育成のためのリーダー、次期マネジャーの育成
- ④ 職員の定着率アップと働きやすい職場環境づくり
- ⑤ 介護スキルを向上するための自主的な勉強会の設置と運営、認知症ケアの向上

について取り組みました。②～⑤についてはそれぞれある一定の成果を上げ、サービ
スの質向上と発展する組織の実現に向けて道筋をつけることが出来ました。しかし、
新規事業である住宅型有料老人ホーム「ぽれぽれ白檀コンフォート」の稼働は必達目
標に達しておらず、改めて自費サービスの質向上や営業力等の課題が残されておいま
す。

本報告書では、前年度の事業計画で定めた方針と目標の進捗状況を評価し、ぽれぽ
れグループのビジョンである「高齢者を総合的に自立支援するためにノウハウを極め
る」に如何に近づけたか確認し、今後の事業計画立案の参考にします。

皆様におかれましては、本報告書についてご不明やご要望の点がございましたら是非
お知らせ頂き、ご指導を賜れば幸いに存じます。

現在の事業概要

- (1) 第1種社会福祉事業
 - 地域密着型介護老人福祉施設の運営
- (2) 第2種社会福祉事業
 - 認知症対応型共同生活介護施設の運営
 - 老人短期入所事業の運営
 - 老人居宅介護等事業の運営
 - 老人デイサービス事業の運営
- (3) 公益を目的とする事業
 - 居宅介護支援事業の運営
 - 養成講座事業の運営
 - 有料老人ホーム事業の運営
 - 家事支援事業の運営
 - 介護予防・日常生活支援総合事業の運営
- (4) その他の事業
 - ぽれぽれ保育園（事業所内保育施設）
 - ぽれぽれカフェ（コミュニティカフェ）
 - 地域公開健康講座
 - まほろば幸いネット（まほろばレスキュー事業）
 - コグニサイズ（認知症予防運動プログラム）
 - 介護勉強会

平成 29 年度の事業計画

平成 29 年度の重点的な目標

- ① ぽれぽれ白樺コンフォートの経営の安定
- ② 公益的な活動と地域とのつながりの強化
- ③ 人材育成のためのリーダー、次期マネジャーの育成
- ④ 職員の定着率アップと働きやすい職場環境づくり
- ⑤ 介護スキルを向上するための自主的な勉強会の設置と運営、認知症ケアの向上

について取り組んだ。

1. 重点目標の振り返り

① 住宅型有料老人ホームぽれぽれ白樫コンフォートの経営的安定

平成 29 年度末で 21 床／35 床、この 1 年で 6 床増えたことになる。目標の 30 床には届かなかった。原因としては、営業戦略と活動の弱さ、地域性による価格設定、他ホームとの差別化（ブランディング）などが課題であると感じる。

運営面では、2 年目とあって多職種連携や情報共有、職員の労働環境についてなどの取り組みを進めるも課題が残った。

② 公益的な活動と地域とのつながりの強化

引き続きキャラバンメイトを中心に、認知症サポーター講座の講師やファシリテーター、小学校へのキッズサポーター養成講座、地域包括支援センター依頼の認知症サポーターステップアップ講座の講師などを行った。

また毎月第三日曜日に、地域向けに認知症予防体操（コグニサイズ）を開催した。地域の方と利用者と一緒に楽しく行う事ができた。

今年度も、地域公開健康講座という形で、毎月地域の方々に講座を開催した。認知症サポーター養成講座、腰の痛み、エンディングノート、介護報酬改定、口腔ケア、講談など多種多様な講座を開催することができ、参加者も大変喜んでおられ、参加者は 123 名、うち地域の方 88 名の参加があった。

またコミュニティカフェという位置づけで、「ぽれぽれカフェ」を毎月開催することができた。参加者延べ人数 110 名、うち地域の方 37 名、毎月楽しみにされている地域の方も多く、継続的な取り組みになってきている。

継続した取り組みとして新沢小学校や第 5 こども園と運動会を通じたの交流を図ることもでき、地域との顔が見える関係ができてきた。

また、新沢公民館よりふれあいサロンの送迎の協力依頼があり、平成 29 年度から実施している。

新沢小学校区の地域福祉推進委員として、ふれあい新沢の実行委員などに参加し、また当日は介護相談も行った。

いつもお世話になっているボランティアさんに対して、ボランティア感謝祭を実施。感謝の気持ちとボランティアに参加頂くにあたってのお願いをした。

道路の定期清掃や溝掃除、地元の第 7 分団様との合同での消防訓練の実施、町内会の年末の夜警周りなどの活動も継続的に行っている。

社会福祉法人による社会貢献共同事業（まほろば幸いネット）に参画しているが、引き続き横の繋がりを大切に協力体制で取り組みたい。

要援護者福祉避難所として指定を受けており、この秋に台風があり行政より受け入れ体制の連絡があった。実際は受け入れまで至らなかったが、連絡体制や防災物品などの

整備が課題としてあがった。次年度予算として計上し整備していく。

介護人材養成のために、今年度より介護福祉士の受験要件が変わり、実務者研修が必須となった。うねび会でも実務者研修を実施し4名の参加があった。

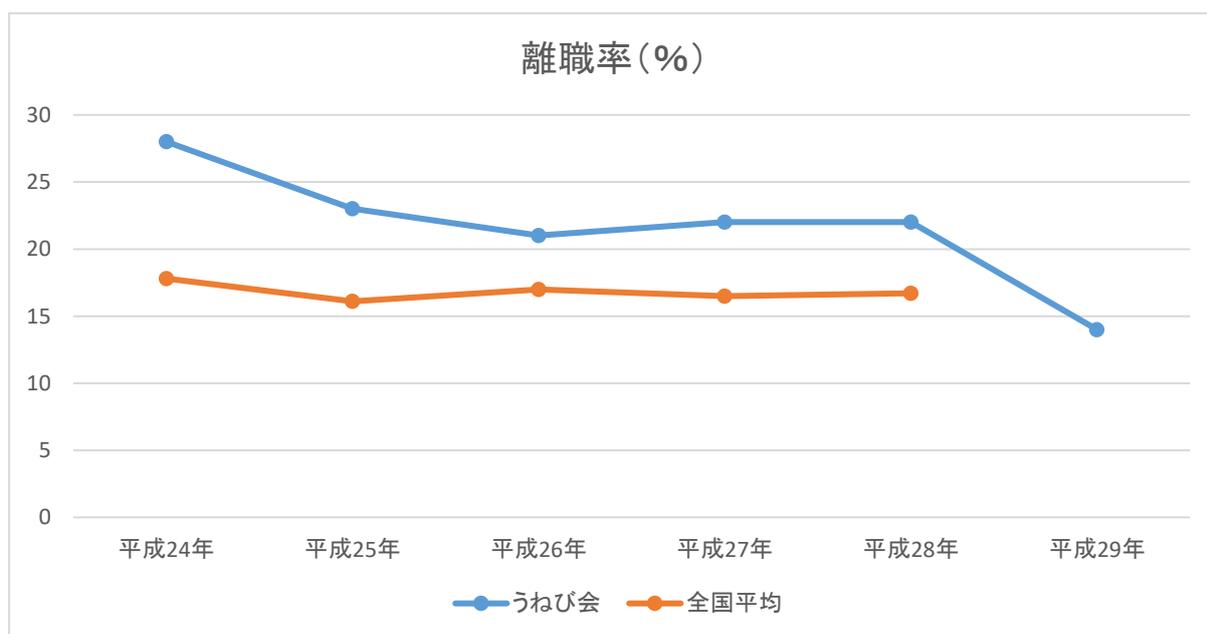
③ 人材育成のためのリーダー、次期マネジャーの育成

職員のOJTについては、新人職員へのマンツーマンでの指導などのOJTの仕組みづくりは進めていくことができたが、新人へのケアや統一した指導・教育については課題が残った。

リーダー研修については、マネジメント研修を見直し、介護労働安定センターの研修も活用しながら、年間目標管理、離職マネジメント、OJTの方法、リーダーの悩み、マネジメントの必要性とは、アンガーマネジメント、1年間の振り返りなどの研修を行った。特にリーダーは職員を大事にするということについての意識が高まり、また経営的な視点も意識できるようになってきた。

④ 職員の定着率アップと働きやすい職場環境づくり

平成29年は職員定着率86%（平成28年は78%、全国平均84%）であった。一定の結果を出すことはできた。年2回の全員面談と目標管理、リーダー職全員で離職について検討・実施、OJT制度の導入、部門の離職者の偏りの軽減などの取り組みによるものと思われる。今後は、引き続きの離職率低下と人材確保について、ひまわりの会と連携し積極的な取り組みを進める。



⑤ 介護スキルを向上するための自主的な勉強会の設置と運営、認知症ケアの向上

平成 29 年度は、自主的な介護勉強会の定期開催と地域事業所へのご案内を行った。年間 8 回、延べ参加者 28 名、うち他事業所の職員 1 名の参加となった。

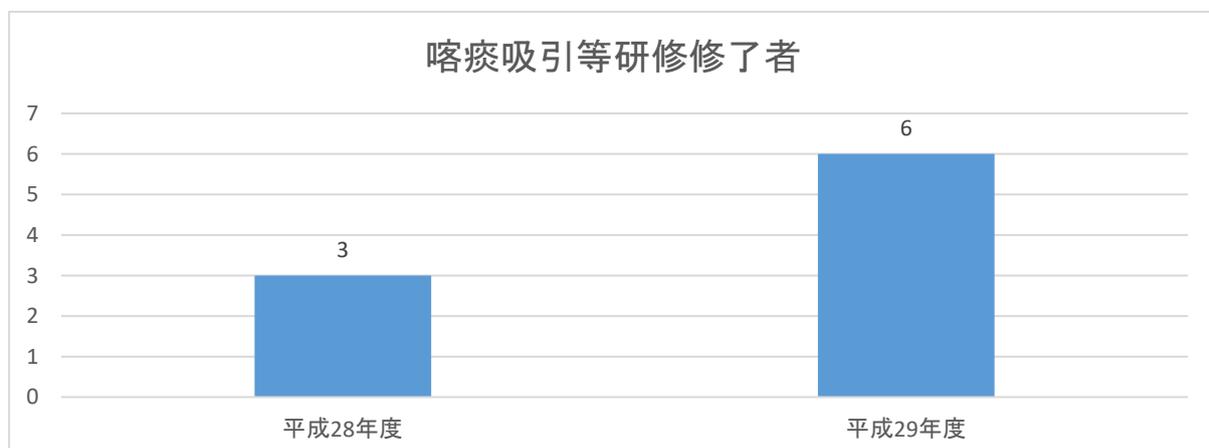
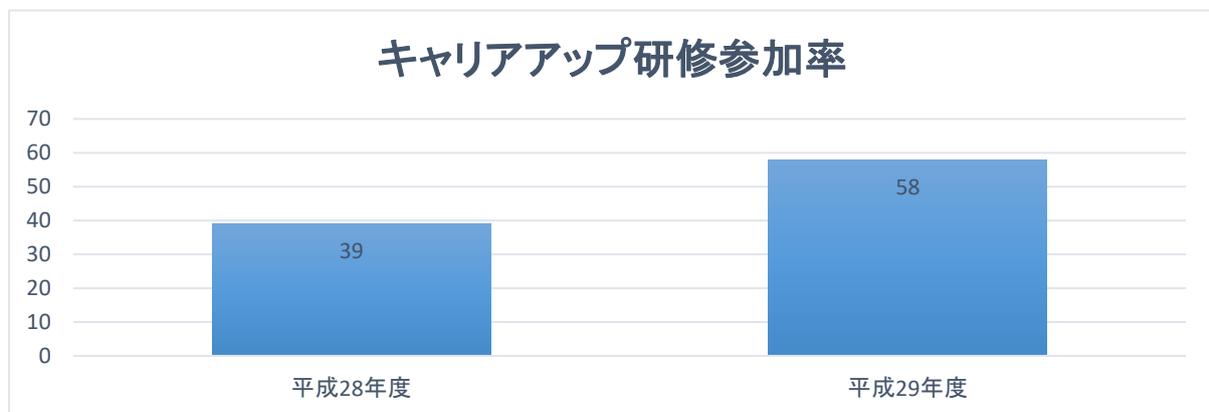
また、認知症の人に対して評価的理解→共感的理解への転換を図るため、認知症ケア委員会を立ち上げ、2カ月に一回、一つの行動・心理症状（BPSD）の事例に対して、ひもときシートを活用しての認知症の人の理解に努めた。

喀痰吸引等研修修了者を増やし、重度者を受け入れる体制づくりをすすめるため、研修の受講と実地研修を行い、喀痰吸引等研修修了者は 3 名→6 名になった。経管栄養の利用者も 1 名入居されておられ、引き続き痰の吸引や経管栄養に対応できる体制づくりを進めていきたい。

キャリアアップ研修のすすめ方を見直し、基本的に多くの参加ができるように毎回 2 回実施するようにしたが、参加率は 59%（前年度 39%）と改善されるもまだまだである。

ケアマネ 1 名、介護福祉士 4 名の合格。ケアマネ合格者が出たのは良かったが、介護福祉士は全員合格できるような体制の見直しと介護福祉士を含めた勉強会の実施の検討が必要である。

他施設との交流については、ひまわりの会との人事交流を行った。2 週間程度の交換実習を行いフィードバックを行ってもらった。お互いの刺激と学びにつながったと思われる。ぽれぽれグループの事例発表会では、祥水園様の職員をお誘いし参加して頂いた。今後も引き続き他施設との交流を図っていきたい。

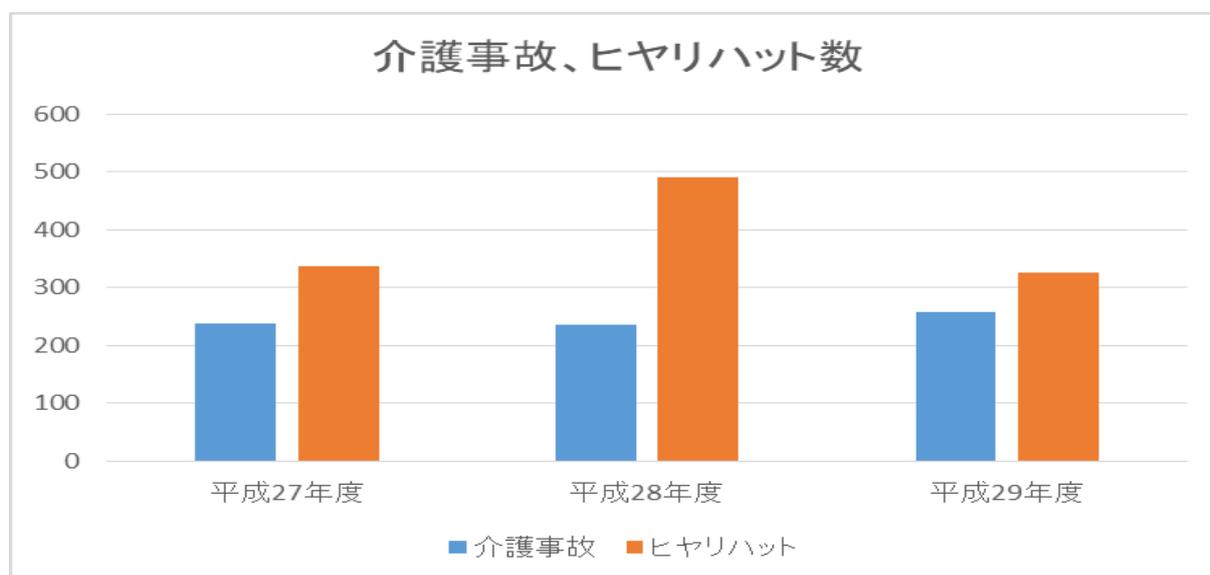


2. 各種委員会、会議、担当、研修、実習生、等

(1) 各種会議・委員会

今年度の事故件数は258件（前年度235件）、ヒヤリハット件数は325件（前年度491件）、苦情は4件（連絡ミス、請求ミスなど）、車両事故5件、介護保険事故報告5件であった。内出血や軽微な事故についても事故としてカウントしているため件数は多くなること、そしてコンフォートの入居者増もあり、介護事故の件数が若干ながら増えたことと、ヒヤリハット件数が減ったことは課題である。ただ、重点的な課題の服薬ミスについては、服薬マニュアルの見直しやチェックリストの活用により、28件（平成28年度39件）と減らすことができた。また、医療機関に受診した場合には介護保険事故報告書を檀原市に提出することになっているが、5件（平成28年度8件）と減少には講じたが、骨折事故もあり、引き続き減らすことができるよう事故対策委員会を中心に、予防策と緩和策などの複合的な視点と是正処置の仕組みづくりについて検討を進めたい。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
介護事故	239件	235件	258件
ヒヤリハット	337件	491件	325件
苦情	3件	2件	4件
車両事故	—	—	5件
介護保険事故報告	—	8件	5件



感染症委員会では、手洗いの研修や吐物の処理方法など行った。また冬場は感染予防対策として、職員への検温・体調管理・手洗い・うがい・マスク着用、面会者への検温・手洗い・うがい・マスク着用の徹底を行い、結果グループホームでのインフルエンザ1件のみの発生に抑えることができた。ただ、保育園を併設しており、引き続きの対応が必要である。

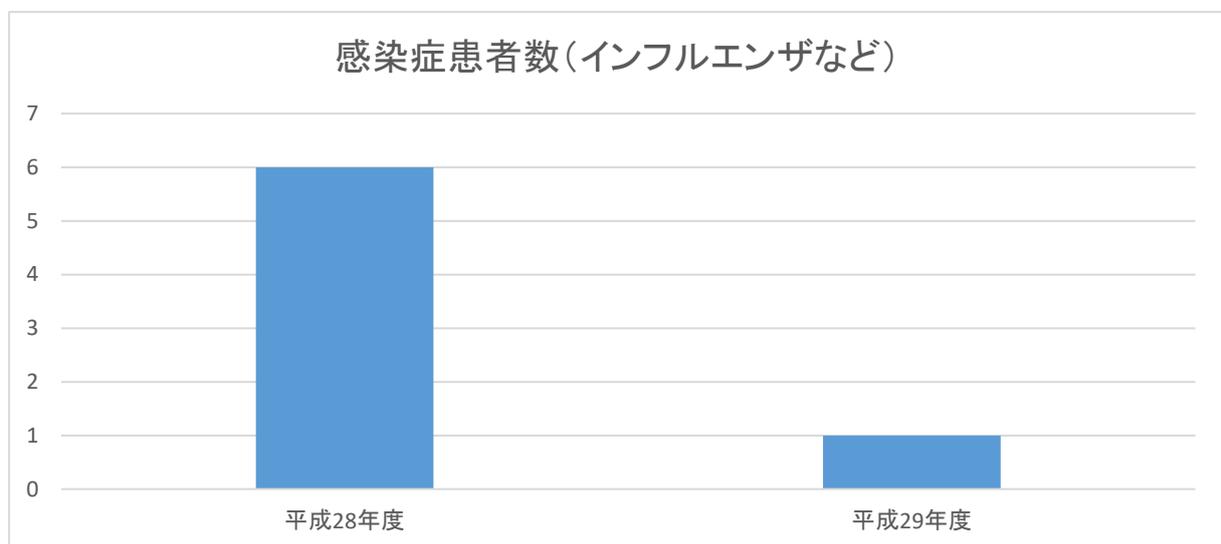
安全衛生委員会では、産業医の先生と毎月職場巡視を行い会議にも参加いただいた。災害時のマニュアル作成と訓練も実施する事ができた。労働環境の見直しという点では、福利厚生の見直しを進め、永年勤続表彰制度の導入、育児支援の見直しを図ることができた。

車両安全推進委員会では、車両事故予防の話し合いを定期的に行っているが、今年度は5件の事故（自損事故含む）があった。

介護サービス向上委員会では、「入浴」をテーマに1年間取り組んだ。特に陰部洗浄と洗髪を研修する中で、足浴の実施などもあり皮膚疾患の減少が見られた。また、祥水園様への施設見学と意見交換を行う中で、意欲的に入浴ケアの見直しを図ることができた。残存能力を活用しより主体的に入浴でき、できるだけ肩まで浸かっていたように、リフトを使わない入浴方法を検討・実施することにより、利用者が気持ちよく入浴している様子も見られる。

接遇委員会では、プロの講師をお呼びし職場の巡視、指導、モニタリングを行ってもらった。言葉遣い、身だしなみ、しつらえなどの改善を図ることができている。

給食委員会では利用者にもご参加いただき毎月意見交換を行った。朝食のコストと献立を見直すことにより、利用者満足を図ることができている。



(2) 研修

今年度も、OJT、OFF-JT、SDSなどを組み合わせた研修を実施した。社外研修では、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、サービス提供責任者研修、レクレーション研修など、多岐にわたる研修に受講してもらった。研修後のフィ

ードバック研修も意識的に行う事ができ、アウトプットの機会につなげることができてきた。毎月のキャリアアップ研修、隔月のマネジメント研修も定着してきた。

(3) 実習受け入れ

今年度も、看護実習生、歯科衛生士専門学校、介護労働安定センター、奈良県福祉人材センター、障害者就業・生活支援センターなどから積極的に実習生を受け入れた。実習生の延べ実習生数は70名を超えた(平成28年度80名)。見学者も多く、アンケートを取る中で貴重なご意見を運営に活かすように心がけてきた。

(4) 行事、ボランティア、面会等

今年度も季節ごとの行事、地域へのイベント参加など積極的に行った。ボランティアの協力はばれりばれり白檀の運営には欠かせないが、今年度も541名(平成28年度555名)の方が関わっていただいた。新たなボランティアの内容としては、和太鼓や河内音頭、腹話術、手品、ハートスマイルなどが加わった。ただ、ボランティアの高齢化が進んでおり、新たなボランティアの確保が重要である。

面会者数も多く、年間面会者・見学者数はのべ6332名(平成28年度4248名)であった。コンフォートの面会者が増えたことが大きな要因であるが、今後も気兼ねなくいつでもお越しいただけるような雰囲気づくりを心がけたい。

3. その他

開設後6年が経過した。オープン当初の混乱や戸惑いも緩和し、軸となるリーダー職の成長も見られる。職員の定着率も改善に向かった。有料老人ホーム以外は財務的にも安定してきた。

ただ、今後利用者が重度化するにあたって、全体的に介護の専門職として終末期対応や状態の観察、多職種連携などのスキルを上げていくことと、介護事業所としての役割(地域、専門性、地域貢献)を担うことが大切であると思われる。

一人一人の利用者、スタッフの主体性と全体的な方針を意識しながら、より利用者本位の運営にこだわり、経営的な努力もすすめ取り組んでいきたい。